



レイ大高島通信

レイカディア大学同窓会高島支部

第 111 号 令和 8 年 3 月 26 日

発行責任者 西澤 幸夫



レイカディア大学同窓会高島支部 令和8年度定期総会と講演会のご案内

新年度を迎えるにあたり定期総会を開催いたします。皆様方におかれましては、公私ともにご多忙のことと存じますが万障繰り合わせの上、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

日 時：令和 8 年 4 月 15 日（水）午後 1 時 30 分 開会

場 所：新旭町公民館 視聴覚室 （TEL25-5500）

〔第一部〕定期総会

〔第二部〕講演会 講演者 湯浅清明様

テーマ：「伊吹山保全と花の
ガイド活動に係わって」



湯浅清明様

◆講演の後、交流会を予定しています。

※案内と議案書を別途お届けします。

出欠を 4 月 6 日（月） までに、地区幹事さんに連絡ください。

※総会当日に同窓会会費を徴収させていただきます。

年会費¥2,000 円（一部の方は 1,500 円）をお願いします。

なお、当日欠席の方は恐れ入りますが、地区幹事さんまでお願いします。

※ 議案書は、総会までに配布いたします。総会にご持参方よろしくお願いします。

◇同窓会本部の総会 令和 8 年 5 月 20 日（水）PM 1：30 草津キャンパス

※実施したイベント

三日月大造滋賀県知事 基調講演の模様

2026年2月12日、栗東芸術文化会館 SAKURA で開催されたレイカディア大学の基礎講座に、三日月大造滋賀県知事が登壇しました。当日は在校生や卒業生など、の〇〇人以上が参加しました。知事は「誰もが自分らしく幸せを感じられる社会の実現」をテーマに講演し、人生100年代における学びや地域とのつながりの大切さについて語りました。講演後には卒業生とのパネルトークも行われ、「最高の人生のつくり方」について意見を交わしました。

参加者にとっては、学びの意義を改めて確認する機会となり、レイカディア讃歌にある「ともに学ばん、ともに遊ばん、ともに生きなん」の精神を再認識するひとときとなりました。



パネルトークの参加者

「天下布武」と「力による平和」、外交努力を超えるもの

西澤幸夫

Zエヌ 映像の世紀バタフライエフェクト「將軍ルメイ“悪魔”と呼ばれた男」でカーティス・ルメイの「力による平和」を知りました。また、大河ドラマ『豊臣兄弟〜』に描かれた織田信長の思想「天下布武」と似ているのではないかと感じましたので、信長とルメイの比較を生成AIに委ねます。

両者はともに“力による秩序”を掲げているように見えますが、その目的や思想的背景は大きく異なります。まず、

信長の「天下布武」は、戦国期の混乱した政治秩序を再構築するための理念として位置づけられます。当時の「天下」は日本全土ではなく、京都を中心とした政治・文化の秩序空間を指していました。信長は武力を用いてこの秩序を立て直そうとしましたが、ここでいう「武」は単なる暴力ではなく、乱を鎮め、民を安んじ、秩序を保つための“徳を備えた武”を意味します。大河ドラマでは、信長が既存の権威を再編し、新しい秩序を築こうとする姿が丁寧に描かれています。一方、カーティス・ルメイの「Peace Through Strength(力による平和)」は、核兵器を含む圧倒的軍事力によって敵国の戦意を挫き、戦争を未然に防ぐという冷戦期の抑止思想です。東京大空襲をはじめとする無差別爆撃を「戦争を早く終わらせるための合理的手段」として遂行した姿が紹介され、破壊力その

ものが平和を生むという彼の信念が強調されていました。ルメイにとって「力」は倫理性を伴うものではなく、純粹な軍事的優位こそが安全保障の基盤であったといえます。両者を比較すると、共通点は「力を秩序形成の手段とした点」にあります。しかし、信長は“秩序の建設”を目的とし、武に倫理性を求めたのに対し、ルメイは“敵の抑止”を目的とし、破壊力そのものを重視しました。信長の武は“秩序を創る力”であり、ルメイの力は“敵を屈服させる力”です。両者は同じ「力」を語りながら、その思想的基盤は根本的に異なるものとして理解で



きます。

今、アメリカとイスラエルのイラン攻撃で世界が大混乱しています。イラン攻撃は、中東全域を巻き込む連鎖的な報復を生み、世界経済や国際秩序に深刻な混乱をもたらしています。イランだけではなく世界各地で多くの紛争が後を絶たず、様々な和平交渉も成立しないのが現状です。

人類は原始時代の昔から力（武力）を使って動物を支配して以来、土地を奪い、領土を増やし、他国を植民地化し、その後、力の均衡で仮の平和を維持してきましたが、現在、再び力を使った制圧や統一の為の紛争状態に陥っています。

紛争が世界規模、核兵器規模になれば世界の未来はありません。力による変更ではなく対話外交の努力はなされていますが結論は出ないまま紛争が拡大していきます。今こそ、「力の均衡」でも「外交の説得」でもなく、紛争そのものを

“無効化”する仕組み（平和ツール：西澤の造語）が必要な時ではないでしょうか。

2026.03.16 記

投稿 西澤幸夫氏

◎次回5月下旬に発行を予定しています。原稿の投稿をお待ちしています。

メールにて

投稿先西澤メールアドレス
nizawa@sea.plala.or.jp